

第40回 市民まちづくり連続講座 in 明石

「縮充社会」とは何か？ 人口縮小社会への希望

市民まちづくり連続講座 2024年の初講座は1月28日(日)、今後否応なく直面する人口縮小社会へ向けて地域社会が充実して豊かに暮らしていける課題を探ります。題して「縮充社会とは何か？」。人口が減っても充実した社会をめざす動きが各地で芽生えています。そのキーワードを共有します。

市民自治あかしが2023年春の市長選挙へ向けて2月に策定した「第4次市民マニフェスト」では、前文に「人口縮小社会における明石のまちづくりへの道筋」として、気候、食糧、エネルギー、戦争の4つの危機に直面するとともに、人口減少が加速するという未曾有の社会に長期にわたって向かい合う時代に入ることを訴えました。その中で「市民自治のまちづくり」を自治基本条例で掲げた明石市は、市民も積極的にその役割を分担し地域の課題や市政に関わっていくことの重要性を認識して「循環型社会をめざした政策」などを提案しました。

この講座では、兵庫県佐用町で縮充戦略アドバイザーを務めている佐伯亮太さんから、いま脚光を浴びつつある「縮充社会」が意味することを伺い、明石における課題を参加者と一緒に考えます。

第40回市民まちづくり連続講座 in 明石

日時 2024年1月28日(日) 午後1時30分～4時30分

会場 ウィズあかし 市民活動支援センター・フリースペース (明石駅前アスパア明石8階)

テーマ 「縮充社会」とは何か？ 人口縮小社会への希望

講師：佐伯亮太さん (Roof. LLC 共同代表/工学博士)

播磨町や佐用町でまちづくり、縮充戦略アドバイザーなども務める

※資料代 300円 ※事前申し込み不要。どなたでも参加できます。会場に直接お越しください。

循環型社会をめざす明石の課題(第4次市民マニフェストから)

今春に提案した「第4次市民マニフェスト」では「市政運営の基本姿勢」や「市長と議会、職員との関係改善と改革」「中長期的な財政見通しと計画の透明化」とともに、4つの「循環型社会をめざした政策」を掲げました。

一つは「世代を超えて互いに支えあって暮らせるまちづくり」で、明石の立地条件を活かした食料とエネルギー、介護ケアを地域で自給する「FEC自給圏」構想の実現です。

二つ目は、10年余におよぶ子育て施策による人口の急増と偏在による市民生活への“歪み”を是

正することです。乱開発や住環境の悪化を是正し、過密の学校や過剰保育施設への対応策を講じます。

三つ目は、里地・里山・里海の保全を図り、自然と人が共生する明石の実現です。市街化調整区域の堅持、市街化区域内の農地の保全、ため池の埋め立ての禁止、北部丘陵地の保全活用を進めることです。

四つ目は、循環型社会の実現に対応したごみ減量目標を改め、418億円という新ごみ処理施設計画の規模圧縮を図ることです。

回	日 時	テーマと内容	会 場
41	2月25日(日)	飛躍的な「ごみ減量」を進めるための課題は何か?	ウイズあかし 8F 市民活動センタ
42	3月24日(日)	テーマは未定	ウイズあかし 8F 市民活動センタ

中崎緑地への
消防分署建設

国道を車庫代わりにした“違法運用”でも強行する？

明石市が新庁舎建設に関連して中崎消防分署を新庁舎北向かいの国道28号沿いの中崎緑地に建て替える計画について、中崎緑地の松林を守る会は「緊急出動に支障が生じるほか、敷地が狭いため車庫入れ時に国道の通行を停めて国道を使って入庫作業を繰り返すのは危険だ」として計画の見直しを求めてきたが、12月市議会で消防局長は「24時間現場で働く署員の意見も反映したベストな計画だ」と言い切った。通行量の多い28号国道を日常的に車庫代わりに使う“違法運用”を責任者が言明したことになり、元々問題の多いこの計画についてさらなる論議を呼びかねない。

敷地売却中止時に計画見直し見過ごす

中崎緑地への消防分署建設計画は、もともとは新庁舎建設後に市役所敷地の残りを「売却」して新庁舎建設資金の一部に繰り入れることが2019年末の新庁舎建設基本計画（素案）で明記された中で浮上した。敷地を一括売却するため、用地費ゼロで建設できる中崎緑地の公園に消防分署を建て直すことから始まった。

しかし、敷地の売却計画は発表と同時に反対の声が市民や議会から挙がり、翌年3月の議会では売却計画は中止「敷地の活用は将来課題」とした。この時点で消防分署の計画も見直し敷地内の一面などに変更すべきだったのを、新庁舎計画を担当する政策局は「すでに消防局の所管」になっていたこともあり、消防局はそのまま粛々と計画を進めた。「縦割り行政」の典型例で、公園をつぶすことへの“痛み”をだれも感じることなく、消防局も「窮屈で無理な予定地」にもかかわらず政策局や上層部に「計画変更」を言い出すこともなしに3年半経過してきたのが真相だ。

消防機能に支障、転回空地不足の欠陥

11月末、守る会のメンバー7名が消防局幹部らと面会し「まだ基本設計を始めたばかりで、変更は間に合う。次善の策の場所ではなく、ベストまたはベターな代替地に変更」する3つの理由を挙げて訴えた。

一つは、国道渋滞時や大事故または災害で28号が通行不能になった際に国道以外に代替経路がないこと。消防庁の整備基準では4分30秒以内に現場到着をめざす指針があるのに、渋滞等で一分一秒を争う緊急自動車が渋滞回避ルートを選択肢を持たない立地は不適切だ。

二つ目は車庫と国道の間に奥行き7mしか「転回空地」がないために、大型車の車庫入れ時には日常的に国道を車庫前敷地代わりに使うことにな

る。国道の通行を停める誘導要員が必要になり、夜間など危険も伴うことになる。車庫と前面道路との間に十分な転回スペースを取る余裕がない敷地だから生じる立地選定の“瑕疵”になりかねない。



新庁舎の特色にも重大なマイナス招く

三つ目は、新庁舎北玄関と国道を挟んでの立地になり、実質マンション4階建ての高さになる消防分署が新庁舎と市街地をつなぐ視界を分断する。新庁舎の「明石らしさ」の最大の特徴としている「まちと海をつなぐ南北軸」の視野を断ち切り、新庁舎の特色と風格を台無しにしかねない。

新庁舎周辺整備を併せた代替案提案へ

12月議会本会議で、議員の質問に対して消防局長は「4分30秒で現場到着」の目標を棚に上げて「全国平均の9.4分に対して明石は8.5分で到着している」「すぐに国道に出るベストの選択」と言い切り、国道にはみ出して車庫入れすることについても「安全確保を最優先する」と答えるにとどまった。

中崎緑地の松林を守る会は今後、分署のよりベターな代替地案と新庁舎の周辺整備やランドスケープの視点を取り入れた「対案」をまとめ、消防機能を危うくせず、新庁舎の周辺景観や環境を確保できることを広く市民に訴えていく。